

研究課題名 脳卒中患者に対するベッドサイドでの多職種カンファレンスの取り組みに関する情報公開

1. 研究の対象

2016年6月1日～2017年2月31日までに10W病棟に脳梗塞で入院された方

2. 研究目的・方法

研究目的：ベッドサイドにおける多職種カンファレンスの実践による脳血管疾患患者のADL改善への要因を明らかにしその結果を検証します

方法：診察記録や看護記録より、医療従事者（医師、看護師、理学療法士など）の記録より以下の内容を抽出します

- 1) 患者情報の基本属性、病態、治療、リハビリカンファレンス、看護介入について
- 2) 入院期間と転帰
- 3) BI 値算出に必要な生活行動の状態：食事摂取、移動、整容、トイレ、入浴、歩行（歩行不能の場合は車椅子乗車）、階段昇降、更衣、排泄、排尿
- 4) リハビリに関連した検討内容：国際生活機能分類（ICF）モデルに基づいた生活行動について多職種間で話し合われた内容
 - (1) 生命レベル：心身機能・構造（手足の動き、精神の動き、視覚聴覚）
 - (2) 生活レベル：活動（日常生活行動、できる行動、している活動）
 - (3) 人生レベル：参加（社会参加、仕事ができる、地域活動に参加）
 - (4) 環境因子：福祉道具、社会福祉的環境
 - (5) 個人因子：年齢、性別、ライフスタイル

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- ・ベッドサイドカンファレンス介入群とベッドサイドカンファレンス非介入群に分類
- ・各群の入院期間、BI改善率を抽出し、カンファレンス介入群と非介入群の平均の差をカイ二乗検定で有意差を確認
- ・各群のリハビリカンファレンス記録から抽出されたICFに基づいた生活行動レベルについて比較検討等です

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

名古屋大学医学部附属病院

名古屋市昭和区鶴舞町 65

052-741-2111（代表）

7E 病棟（脳神経外科・乳腺内分泌外科）

看護師 大野木 香（脳卒中リハビリテーション看護認定看護師）

内線：6077

E-mail：oonogi.kaori@a.mbox.nagoya-u.ac.jp

研究責任者：

名古屋大学医学部附属病院 10W 病棟（神経内科・老年科） 恵川 綾子